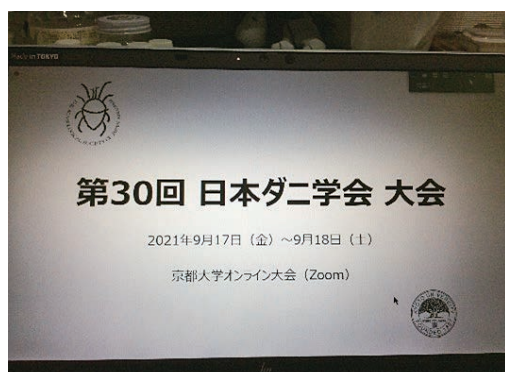


第30回日本ダニ学会 京都大学ZOOM大会

編集委員会

日本ダニ学会はダニ類研究会(1973年設立)が発展的に解消し、1992年1月に発足しました。医学・公衆衛生学・獣医学・農学・理学といった学問分野にとらわれず、ダニ学のあらゆる内容(分類・発生・生態・生理・防除)の進歩と普及をはかることを目的としています。研究成果は、年1回開催される大会での講演と、年2回発行される会誌(日本ダニ学会誌)で公表されます。(ホームページより)

今回の大会は、新型コロナウイルスによりウェブによる開催となりましたが、全国から67名が参加されました。例年は2日間の大会ですが、今年は演題が23題となり1日の開催となりました。終了後、オンラインでの懇親会がありました。



刑部 正博 大会長のご挨拶
(京都大学大学院農学研究科)

会 期：2021年9月17日(金)

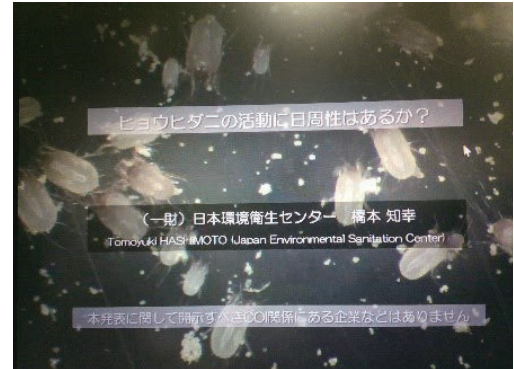
会 場：京都大学オンライン大会(ZOOM)

《一般講演内容(演題数)》

- | | |
|-------------|------------|
| ・日本紅斑熱 (1) | ・カブリダニ (3) |
| ・ハダニ (11) | ・ササラダニ (1) |
| ・マダニ (1) | ・ミズダニ (1) |
| ・ヒョウヒダニ (1) | ・ケダニ (1) |
| ・タカラダニ (1) | |

橋本 知幸先生(日本環境衛生センター)が2題の講演を行った。

- ・ヒョウヒダニの活動に日周性はあるか？



コナヒョウヒダニの光、生ダニ密度、温度、湿度による活動の日周性への影響を調べた。ダニの這い上がりは、昼夜を問わず観察され光条件による活動性の違いは明確ではなかった。温度による影響も明確ではなかった。低湿度では這い出し行動が抑圧されていることが認められた。

今回の試験方法では、明確な日周性は認めがたいが、外的要因の変化によってダニ数が変動する可能性が示唆された。

- ・チマダニ属若虫にみられた片側脚欠損の2事例

